

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

奏 楽 門 脇 陽 子 姉 妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 24 : 1 まぶねの中に産声あげ

まぶねの中にうぶ声あげ たくみの家に人となりて

貧しきうれい生くる悩み つぶさになめしこの人を見よ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言：

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 24 : 2 食する暇もうち忘れて

食するひまもうち忘れて しいたげられし人をたずね

友なき者の友となりて 心くだきしこの人を見よ アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 7 キ リ ス ト の 二 性 一 人 格

三位一体の第二位格である神の御子は、まことの永遠の神であり、み父と同質・同等でありながら、時満ちて、人間の性質を、それに属するすべての固有の性質や共通の弱さと共にとられ、しかも罪はなかった。彼は、聖霊の力により、処女マリアの胎に彼女の本質をとって身ごもられた。

そこで、二つの十全で区別された性質、すなわち、神性と人性とが、変換・合成・混合することなく、一つの人格の中に、分離できないように結合されている。この人格は、まことの神またまことの人であり、しかも一人のキリスト、神と人との間の唯一の仲保者である。(ウエストミンスター信仰告白8章2節によるカルケドン信条：451年)

献 金 (黒)教会活動 (赤)盛岡伝道所 70
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書6章27-36節(新約聖書113頁)
説教・祈祷 「汝の敵を愛せよ」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 24:3 すべてのものを与えしすえ
すべてのものを与えしすえ 死のほか何もむくいられで
十字架の上に上げられつつ 敵をゆるししこの人を見よ アーメン

* 主の祈り 祈祷書1
天にましますわれの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今度も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 68天つ御民も地にある者も
あまつ御民も地にある者も 父、子、御霊の神を讃えよ 神を讃えよ アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老

I よく知られているが、よく誤解される箇所

「汝の敵を愛せよ」=27節「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にきなさい」。マタイ福音書では「悪人に手向かってはならない」とまで言っています。これは政治的な無抵抗主義ではありません。30節「あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない」。ここから、警察や国家権力を否定するのも間違いです。29節「あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい」。ここから政治的な非暴力抵抗主義を引っ張り出すのも間違いです。

それらは尊い精神ではありますが、いい言葉だなと思う言葉だけ取り出しているのです。ここでイエス様が教えておられるのは、この世のヒューマニズムではありません。一般に人間社会に適用されることとして教えておられるものではありません。キリストに従う信徒の信仰として教えておられるのです。

II 旧約聖書の同体報復法

29節「あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない」。上着は大きな毛布のようなもので、昼はマントになり、夜は毛布になります。下着は、木綿か麻の長い袋状のものです。

旧約聖書では「目には目を、歯には歯を」と教えているのに、どう考えたらいいのでしょうか。「目には目を、歯には歯を」は、仕返しのエスカレートを防止するために、社会的には妥当な法律です。古代オリエントのハムラビ法典にある同体報復法がイスラエル国家にも適用されました(レビ24:17~20 刑法の罰則規定)。

ある注解者が、「原始時代には、復讐と流血が部族社会の特徴であった。もし、ある部族の男が他の部族の男を傷つけると、直ちに傷つけられた男の部族全員が、加害者の属する部族全員に復讐するために出動した。そしてその復讐は、相手を殺すまで満足しなかった」と言っていますが、原始時代だけのことでしょうか？ 現代でも、ある国が攻撃を受けたら、同じ分くらいの報復措置をするのが常識になっています。野球でも、「あるチームの選手が他のチームの選手に傷つけられたら、直ちに傷つけられた選手のチーム全員が出動する」のです。いつでもエスカレートする可能性があるのです。

主イエスの教えは、仕返しをしないで、むしろそれ以上のことをせよ、というものです。個人的な仕返しは、旧約律法も教えていません。すなわち、「目には目、歯には歯」は、個人的復讐を奨励していません。社会的な犯罪を身に受けたなら、公的な裁判に委ねて悪人に手向かうなと言っているのです。同じレビ記19:18(192頁)では、個人的な復讐心を持つなと言っています。

しかし、主イエスの教えは、悪をもって悪に酬いるな、善をもって悪に勝て、すなわち、キリストの弟子たる者は、争いのあるところに平和をもたらせということです。主イエスの教えは、仕返しをしないで、ぶたれたらもう片方もぶたれなさい、上着を奪われたら下着も与えなさいというものです。しかし、一読して、一方的に損をすることを勧めるのは不可解です。

III 神が罪人という敵を愛されたことにならえ

そこで、「汝の敵を愛せよ」の根底にあるのは、神がキリストにおいて罪人という敵を赦してくださる愛と憐れみなのです。救いの教えが土台です。だから、いい言葉だなと思うだけでは真の意味が分かりません。ここでイエスが教えておられるのは、ヒューマニズムではなく、神への信仰と行ないなのです。

「汝の敵を愛せよ」をまず実行されたのは神の子イエスです。人となった神の子のわざです。本当に実行できた唯一の人です。自分を「十字架に付けよ」と叫ぶユダヤ人に罵り返すことなく、頬を打つローマ兵に打ち返すことなく、十字架の下でイエスの衣服を奪い合う兵士たちに下着も上着も与えられました(ヨハネ19章23節が詳しい)。

これらすべての行ないは、神が人間を救うみわざでありました。これらすべてのことによって、人間に神との平和をもたらすためでありました。神の愛と善意を受け入れてキリストを信じる者は、キリストの弟子として主の道を歩め。その道は、悪をもって悪に手向かうことなく、善をもって悪に勝利する平和の道であります。

そこで、主イエスが教えておられるのは、神が罪人という敵を愛されたことに習えということなのです。そのためには、罪人が神の敵であることが、どんなに恐ろしいことかを分かっていないといけません。ただ分かっているのでは不十分で、その恐ろしさにあがるほどでないといけません。ですから、新約聖書だけではヒューマニズムに陥る可能性があります。旧約聖書を読まないといけないのです。

旧約聖書を読むと、神の民イスラエルが神に背いたら、エジプトから救い出されてもバビロンの奴隷となってしまいます。預言書は「エジプトから救い出してくださった神に立ち帰れ、偶像礼拝を捨てて十戒に立ち帰れ。立ち帰らない場合、神はアッシリア帝国を用いて北イスラエル王国を滅ぼす、南ユダ王国はバビロンが神に用いられて滅ぼされる」と繰り返し叫んでいます。その滅びの言葉は本当に恐ろしいものです。

IV キリストにならいて

神の民でさえそうなら、異邦人には、神に立ち帰ることは極めて困難であると、使徒パウロは言っています。「もしあなたが、もともと野生であるオリーブの木から切り取られ、元の性質に反して、栽培されているオリーブの木に接ぎ木されたとすれば、まして、元からこのオリーブの木に付いていた枝は、どれほどたやすく元の木に接ぎ木されることでしょうか。」(ローマ11:24)

そこで、神が敵である罪人をキリストによって愛されたことが、どれほど大きいことであるかを前提に、主イエスは教えておられるのです。あなたの隣人を自分のように愛しなさいという以上のレベルが要求されています。自分以上に隣人を愛しなさいと、教えておられます。そしてそれを、主イエスは十字架で実践されたのでした。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ15:13)。キリストの十字架によって、罪人は友と呼ばれることになりました。神の子とされた者たちは、主を、いつくしみ深き友なるイエスと呼ぶことができるようになりました。

そういうわけで、「罪人でさえ、それくらいはする」というフレーズが繰り返し出てくるのです。では、罪人でないなら何になるのか、何になったのかというと、35節「いと高き方の子」となるのです。すなわち、「神の子」となるのです。神の「子」と呼ばれるのであれば、神を「父」と呼ぶことができます。だから、36節「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」、神にならえと言っておられます。35節では「いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである」とも言っておられます。

つまり、神の子は神のようになれ、ということですが、マタイ福音書から補足説明すると、「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」(5:48)というほどハイレベルです。そんなハイレベルは人間レベルではないので、神の子らの中にキリストのかたちが作られていくに従ってできることです。「生きているのは、もはや私ではありません。キリストが私の内に生きておられるのです」(ガラテヤ2:20)。まったくアーメンです。